ミヤマシダ　*Diplazium sibiricum* (Turcz. ex Kunze) Sa.Kurata var. *glabrum* (Tagawa) Sa.Kurata

【評価理由】

温帯性の植物で、過去に採集された標本はあるが、現存が確認できない。

【形　態】

夏緑性の多年生草本。根茎は長くはう。葉柄は長さ 20～30cm、披針形～卵形で黒褐色の鱗片がやや密につく。葉身は広三角形、3 回羽状深～全裂し、長さ 20～35cm、幅 25～40cm、草質、羽片は 6～7 対で、下部の羽片には長い柄がある。胞子のう群は裂片の中肋近くにつき、線形、長さ 1～3mm である。

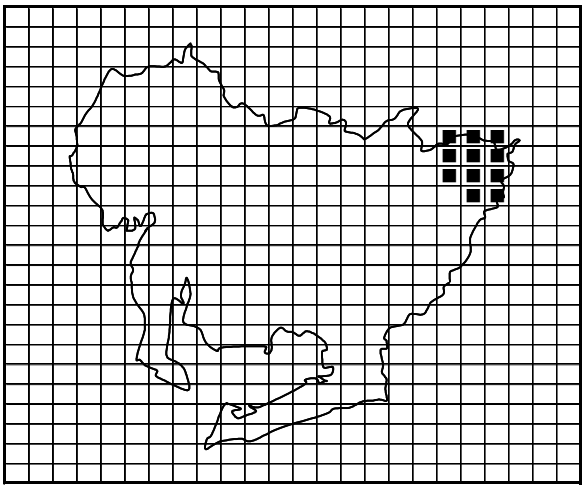
【分布の概要】

【県内の分布】
東:2 豊根（茶臼山, 芹沢 44532, 1986-8-30）に生育していた。

【国内の分布】
北海道、本州（近畿地方以北）、四国（徳島県）に分布する。

【世界の分布】
日本および朝鮮半島南部。基準変種のキタノミヤマシダ var. *sibiricum* は葉の切れ込みがやや深く、羽軸や小羽軸の裏面に毛があり、包膜の辺縁が細裂するもので、ユーラシア大陸北部に広く分布しているが、日本では少ない。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

温帯域の林床に生育する。愛知県の自生地は、池畔の平坦な林床であった。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林	○			
草･岩				
湿 地				
水 域				

【過去の生育状況／絶滅の要因】

1 カ所に小群落があっただけで、もともと発育状態が悪く、胞子のう群もほとんどつけていなかった。スキー場造成に伴う開発によって生育地が破壊され、絶滅した。

【保全上の留意点】

本種とキヨタキシダとの自然雑種であるミヤマキヨタキシダは、まだ茶臼山に残存しているほか、津具にも生育している。

【特記事項】

ノコギリシダ属としては数少ない、温帯性の種である。矢作川対岸の岐阜県恵那市串原では標高 500m 程度の造林地内に生育しており、今後豊田市稲武地区などのその程度の標高の場所で発見される可能性も残されている。キタノミヤマシダとミヤマシダはおそらく種の階級で区別されるべきものと思われるが、十分な検討材料を得ることができない。

【関連文献】

保シダ p.128, 平シダ p.256, 学シダ p. 325, SOS 旧版 p.41.
倉田 悟･中池敏之（編）. 1983. 日本のシダ植物図鑑 3: 168–172. 東京大学出版会, 東京.